

■はじめに

校園長の皆さん、こんにちは。 新年度が始まって2週間近く経ちました。

今年度は、新しく20名が校園長になりました。新任校園長の皆さんには、奈良市の目指している教育の方向をしっかりと理解し、学校・園経営をしていってほしいと思います。

今日は、第1回目の校園長会ということで、まずは奈良市の教育がどのような子どもの育成を目指しているのかについてお話しますが、その前に少し、今年度の新規事業について紹介しておきます。



一つ目は、「ならの子ども学力向上プロジェクト事業」です。これまで、文部科学省の全国学力・学習状況調査が行われてきましたが、現在では抽出による調査となっています。そこで、奈良市のすべての学校の学力や学習状況をきちんと把握したうえで、学力向上に向け、具体的な指導改善につなげていくことができるよう、本事業を実施していきたいと考えています。

二つ目は、「学校支援プロジェクト事業」です。これは、いわゆる学校の「荒れ」を未然に防止し、生徒指導上の大きな課題が発生した場合に、緊急支援を行うというものです。また、そのようなことが起こらないように教員の資質向上や、子どもの学習習慣の定着に向けた支援も行っています。

新規事業ではありませんが、今年度から地域教育課がバンビーホームを担当することになりました。放課後の学童保育が教育委員会の管轄となることで、よりいっそう学校との連携が図られるのではないかと考えています。

■育てたい3つの誇り

さて、先月、二月堂で行われた「お水取り」ですが、今年で1261回目を数えました。このことについては、今まで何回か話をしてきました。校園長の皆さんをはじめ学校現場の皆さんに、この行事の本当の意味を知ってもらうため、実際にお堂の中に入って直接十一面観音悔過^{けか}を目の当たりにしてもらう研修を3年前から行ってきました。今年は88名の参加がありました。校園長の皆さんもすでに参加したことがあるのではないのでしょうか。この「お水取り」については、今まで何回か話をしてきました。

また、秋に行われる正倉院展をとりあげた話も、度々してきました。私も、毎年見に行っています。一説によると、この正倉院展は、世界で一番混雑している展覧会とも言われています。皆さんは、この正倉院展の始まりをご存知でしょうか。

正倉院の宝物は、第二次世界大戦のとき、戦火から逃れるために、国立博物館に避難していました。戦争が終わり、それを正倉院に戻すときに、「せっかくだから、ぜひ一般にも公開してほしい



い。」という世論に後押しされ、昭和21年10月に第1回の正倉院展が行われました。これがそのときのチケットです。実は、「正倉院特別展観」と書かれているだけで、「第1回」とは書かれていません。このときには、正倉院展を毎年行う計画はありませんでした。ところが、戦後間もない暮らしも厳しい時代に、この正倉院宝物を見るために多くの人が奈良に集まりました。そして、この宝物を見て勇気や希望をもつことができたのです。このようなことから、正倉院展を毎年開催してほしいと言う声が多くなり、それ以降、毎年開催され、今に至っているのです。昨年の大震災の後には、被災地である仙台でフェルメール展が開催され、多くの人たちの心を勇気づけました。戦後に開催された正倉院展も、まさに同じだったのかなと思います。

私は、正倉院の宝物を見るたびに思い浮かべる言葉があります。それは、光明皇后が聖武天皇の遺品を大仏に献納する際に記された正倉院宝物の目録である国家珍宝帳の「触目崩摧（しょくもくほうさい）」という言葉です。「聖武天皇が使われていた品物に、目が触れるだけで、自分の心が悲しみに崩れくだけてしまう。だから、大仏様に献納するのです。」という意味です。この光明皇后の耐え難い悲しみを知って正倉院宝物を見るのと、知らずに見るのとでは感動が違います。うわべだけを見て「知っている」というのではなく、その本当の姿に迫ってほしい、ということです。私は、それを「深く知る」という言葉で何度も伝えてきました。校園長の皆さんには、奈良にあるものの本当のよさやすばらしさを知って、教育を進めてほしいと思います。

■終わりに

昨年12月24日に行われた世界遺産学習全国サミットの「子ども会議」では、長浜市立西中学校、姫路市立手柄小学校、本市の都跡小学校の児童生徒により、次のような子ども宣言が作られました。

第二回世界遺産学習全国サミット 二〇二二年 子ども宣言	
わたしたちの身の回りには、古い文化財や美しい自然、昔から続いている伝統や文化など、誇れるものたくさん残っています。しかし、残っているのが当たり前ではなく、昔の人々がそれを大切に思い、守り、伝えてきたからこそ、今こうしてわたしたちの目の前にあるのです。そのため、わたしたちの時代で失くしたり終わらせたりするわけにはいきません。	
わたしたちは、誇れるものだからを未来に残していきたいと願い、ここに宣言します。	
わたしたちは、	
一、わたしのまちのだからを知るために学び続けます。	
一、誇れるまちのだからを多くの人に伝えていきます。	
一、それぞれのまちのだからを皆と協力して受け継ぎます。	
一、わたしのまちのだからを受け継ぐために、人とのつながりや絆を大切にします。	
平成二十三年十二月二十四日	
長浜市立西中学校	二年 清水 彩未
姫路市立手柄小学校	二年 関口 耕大
姫路市立都跡小学校	五年 上田 梨奈
五年 植田 一哲	五年 岡田 一哲
五年 寺山 紘大	五年 植田 涼介

この子ども宣言は、まさに私たちが、奈良市の子どもたちに伝えていきたいこと、その

ものです。

「奈良には本当にすばらしいものがある。」

私はこのことをいつも皆さんに伝えてきました。奈良に育ちながら、奈良のよさを何も知らずに育っていく。それはとても残念なことです。過去に都があった町は、いくつもあ
るわけではありません。奈良は大変貴重な町です。私は、奈良の教員は、奈良の素晴らしい
文化財や伝統を子どもたちに伝えていく責務があると思っています。奈良市では、この
ような教育の中で、3つの誇りを育てたいと考えています。

- 1 奈良にあるすばらしい文化財や伝統などに対する誇り
- 2 千年単位で文化財や伝統を守り、受け継いできた奈良の人々の営みに対する誇り
- 3 本物に触れて学ぶことのできた自分に対する誇り

そのためには、教員自身が、まず奈良を「深く知る」と言うことが大切です。深く知れ
ば、きっと誰かに話したくなるはずです。「深く知る」と言うことは、「奈良のよさ」を知
ることだけにとどまりません。様々なことに自分から進んで取り組み、見聞を広めてほし
いと思います。校園長会や教頭会では、常々、「自分の時間とお金を使ってでも、深く知る
努力をお願いしたい。」と言ってきました。自らを磨くことが、奈良市の子どもたちのため
になるのです。先ほどの子ども宣言にあるような子どもたちを育てていくために、奈良市
の校園長としての自覚と誇りをもって、よろしくお願いします。